

V. 特記事項

手厚い学修支援

本学の最も明らかな特徴は、診療放射線技師を養成する単一学部・単一学科構成の大学である。学生定員は1学年あたり80人であり、教職員数は約40人、うち教員は約20人である。その小ささを積極的に活かし、特に手厚い初年度教育を行っている。

1. 学生：教員比4：1の担任制度

本学では、各学年定員80人の学生を9クラスに分け、約20人の教員がそれぞれのクラスを2人ずつで協力しながら担任している。特に1年次生に対しては、コロナ禍のため中止されていた一泊研修が令和5(2023)年度から再開した。一泊研修は入学直後の新入生がクラス毎に研修を行うことで、早期の相互理解を促す目的で行われている。各研修には、クラスの学生と一緒に教員も参加することで、教員と学生間の交流を深めている。また、1人の教員が担当する学生数は4人程度と非常に少ない人数に抑えられていることから、きめ細やかな面談を行うことができ、新入生がスムーズに大学生活に順応できるよう配慮している。教員1人につき学生4人というのは他学年においても適用されているため、小規模な大学の特徴が最大限に活かされており、学生と教員との距離を非常に近くすることが可能となっている。この結果、教員の目が学生全体に行き届かせることができ、学生の修学状況のみならず、日常生活状況までも把握できるようにしている。

2. 基礎科目の実施

本学では、高等学校で数学や理科科目を十分に学修してこなかった新入生も多い。そこで、高校レベルの数学、物理学、化学、生物学の修得サポートを入学後行い、リメディアル教育科目として、基礎数学・物理学、基礎化学、基礎生物学の3科目を選択科目として開講している。高等学校で数学や理科科目を履修した新入生も復習のために履修することが勧められており、1年次生のほぼ全員がこの3科目を履修している。

3. 数学・物理科目の少人数講義

数学と物理学およびその関連科目は放射線科学の基礎であり、診療放射線技師国家試験合格のためには修得が必要となるが、本学の学生にはこれらの科目を不得意とするものが多いのが現状である。そこで、基礎を固める初年度教育と2年次前期の数学、物理学の関連科目は各学年全体を2教室、あるいは3教室に分け、各教室に30～50人程度の少人数で講義を行っている。数学・物理学担当教員は密に連携しながら各担当クラスの学生をきめ細やかに指導し、専門科目が修得できるレベルに学生を引き上げるように配慮している。